

取扱暗号資産の概要説明書

概要書更新年月日		2022年10月31日
【基礎情報】	日本語の名称	シンボル
	現地語の名称	Symbol
	呼称(日本語の名称と同じ場合は一表記)	シンボル(ジム)、Symbol/XYM
	ティッカーコード(シンボル)	XYM
	発行開始(年、月、日)	2021年3月17日
	時価総額(ドル基準、例: \$ 1,000,000)	\$304,661,414
	時価総額(円基準、例: ¥ 100,000,000)	¥45,394,550,757
	主な利用目的	送金、決済、投資等の利用に加え、取引手数料、ネットワーク上のトランザクションを処理および記録するパブリックノードに対するブロック報酬など
	利用制限の有無	—
	海外流通の有無	あり
	国内流通の有無	あり
	店舗等の利用制限の有無	—
	利用制限を行う者の属性	—
	利用制限の内容	—
	一般的な性格	分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償として発行される暗号資産
	法的性格(資金決済法第2条第5項第1号、第2号の別 例:第1号)	第1号
	2号の場合:相互に交換可能な1号暗号資産の名称	—
	発行暗号資産に対する資産(支払準備資産)の有無および名称	—
	発行者に対する保有者の支払請求権(買取請求権)	—
	支払請求(買取請求)による受渡資産	—
発行者が保有者に付与するその他の権利	—	
発行者に対して保有者が負う義務	—	
価値の決定	保有者間の自由売買による	
交換(売買)の制限	—	
価値移転、保有情報を記録する電子情報処理組織の形態	パブリック型ブロックチェーン	
保有・移転記録台帳の公開、非公開の別	公開	
保有・移転記録の秘匿性	公開鍵暗号の暗号化処理を施しデータを記録	
利用者の真正性の確認	秘密鍵と公開鍵を用いた暗号化技術により、利用者本人が発信した移転データと特定し、記帳する	
価値移転記録の信頼性確保の仕組み	POS+(Proof of Stake+) XYMの記録保管にかかるコンセンサス・アルゴリズムにはビザンチン障害耐性のあるPOS+が使われている	
誕生時に技術的なベースとなったコインの有無とその名称(アルトコインのみ)	NEM	
【取引単位・交換制限】	取引単位の呼称	XYM
	保有・移転記録の最低単位	0.000001 XYM
	交換可能な通貨又は暗号資産	JPY、BTC
	交換制限	—
	制限内容	—
【連動する資産の有無等】	交換市場の有無	あり
	価値が連動する資産等の有無	—
	価値連動する資産等の名称	—
	価値連動する資産等の内容	—
	価値連動する資産との交換の可否	—
	価値連動する資産との交換比率	—
価値連動する資産との交換条件	—	
【付加価値】	その他の付加価値(サービス)の有無	あり
	付加価値(サービス)の内容	直接的な付加価値というわけでは無いが、一定数量以上のXYMを所有するノードはハーベストに参加する権利を得る
	過去3年間の付加価値(サービス)の提供状況	—

【発行状況】	発行者	発行はローンチ時に有志の開発者によって作られたプログラムで行われた
	発行主体の名称	—
	発行主体の所在地	—
	発行主体の属性等	—
	発行主体概要	—
	発行暗号資産の信用力に関する説明	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の記録者による多数決をもって移転記録が認証される仕組み ・ブロックチェーンによる保有・移転管理台帳による記録管理と重層化した暗号化技術による記録の保全能力 ・保有・移転管理台帳の公開 ・暗号化技術による保有者個人情報の秘匿性
	発行方法	約78億XYMがSymbolブロックチェーンのローンチに際して行われたスナップショット時のXEM保有者に割り当て。残りの約12億XYMはプログラムによる自動発行。
	発行可能数	8,999,999,999XYM
	発行可能数の変更可否	不可
	変更方法	—
	変更の制約条件	—
	発行済み数量	7,964,235,720 XYM
	今後の発行予定または発行条件	ローンチ時に発行された約78億XYMの発行後は、ビットコインのインフレーションレートに連動し、約12億XYMがネットワークを維持するパブリックノードなどに対する報酬として自動発行される。
	過去3年間の発行状況	—
	過去3年間の発行理由	—
	過去3年間の償却状況	—
	過去3年間の償却理由	—
発行者の行う発行業務に対する監査の有無	—	
監査を実施する者の氏名又は名称	—	
直近時点で行われた監査年月日	—	
直近時点における監査結果	—	
【価値移転記録台帳に係る技術】	ブロックチェーン技術の利用の有無	あり
	ブロックチェーンの形式	パブリック型
	ブロックチェーン技術を利用しない場合には、その名称	—
	利用するブロックチェーン技術以外の技術の内容	—
	価値移転認証の仕組み	台帳形式。ネットワークへの貢献について一定要件を満たした記録者が、利用者および移転内容の真正性を確認して価値移転記録台帳の記録を確定する。
	価値記録公開/非公開の別	公開
	保有者個人データの秘匿性の有無	あり
	秘匿化の方法	公開鍵と秘密鍵による暗号化
価値移転ネットワークの信頼性に関する説明	オープンネットワークの脆弱性に対し、暗号により連鎖する台帳群（ブロックチェーン）によるノードの過去動作を監視した評価軸とノードの計算作業量をもって移転記録が認証される仕組みを用い、多数の記録者のネットワークへの参加を得ることによって、データ改竄の動機を排除し、信頼性を確保する。	
【価値移転の記録者】	記録者の数	1,522ノード ※2021年11月4日 15:19時点
	記録者の分布状況	ノード数の国別トップテン分布状況： 1位 日本 545(35.8%)、2位 ドイツ 316(20.8%)、3位 イギリス 195(10.9%)、4位 オランダ 133(8.7%)、5位 リトアニア101(6.6%) ※2021年11月4日 15:20時点 ※カッコ内はノード総数1,522に対する割合
	記録者の主な属性	一定数のXYMを所有する者であれば誰でも自由に記録者になることができる
	記録の修正方法	取引が一旦記録されると、取引は変更することができない。承認された送金はキャンセルすることができないので、その送金を無効とするためには反対の取引を別途行う必要がある。それらの履歴は全てブロックチェーン上に記録される。
	記録者の信用力に関する説明	1万XYM以上を保有する記録者であればハーベ스팅に参加可能であり、かつ重要度スコアは保有額だけでは定義されない。したがって、より積極的にネットワークに貢献するノードほどハーベ스팅を行う機会を得るといふ、公正なネットワークを構築することが可能と考えられる。
	価値移転の管理状況に対する監査の有無	—
	監査を実施する者の氏名又は名称	—
	直近時点で行われた監査年月日	—
	その監査結果	—
	(統括者に関する情報)	—
	記録者の統括者の有無	—
統括者の名称	—	
統括者の所在地	—	
統括者の属性	—	
統括者の概要	—	

【暗号資産に内在するリスク】	価値移転ネットワークの脆弱性に関する特記事項	他のPoS形式のブロックチェーンと同様に悪意を持った記録者の結託を通じたネットワーク攻撃といった懸念はある
	保有情報暗号化技術の脆弱性に関する特記事項	第三者に秘密鍵を知られた場合には、利用者になりすまして送付指示を行うことができる
	発行者の破たんによる価値喪失の可能性に関する特記事項	
	価値移転記録者の破たんによる価値喪失の可能性に関する特記事項	正常に価値が記録されなくなることによる価値の損失を懸念して価格が下がる可能性がある
	移転の記録が遅延する可能性に関する特記事項	パブリックネットのストレステスト実施結果によると、処理性能が1秒あたり400トランザクションであるため、それ以上の大量のトランザクションがごく短い期間で発生した際、記録処理が追いつかずトランザクションのブロックチェーンへの取り込みが遅延する可能性がある。
	プログラムの不具合によるリスク等に関する特記事項	他の暗号資産同様に未知のバグが発見される可能性がある
	過去に発生したプログラムの不具合の発生状況に関する特記事項	—
	非互換性のアップデート(ハードフォーク)の状況 今後の非互換性アップデート予定 正常な稼働に影響を与えたサイバー攻撃の履歴	— — —
【流通状況】	価格データの出所	出所: 当社Orderbook trading
	1取引単位当たり計算単価(ドル基準、例: \$ 1,000,000)	\$0.0383
	1取引単位当たり計算単価(円基準、例: ¥ 100,000,000)	¥5.70
	ドル/円計算レート 2022年10月31日基準	1ドル/約149円
	四半期取引数量(協会加盟会員合計、現物、単位は百万円)	49,903(4.6月期)
備考	—	